

「経営の健全化のための計画」

(金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律第5条)

の履行状況に関する報告書

(貸出金の推移)

平成11年12月
三井信託銀行株式会社

「貸出金の推移」について

・ 11年9月末の実績等の状況について

当社は、積極的な貸出運営により健全な貸出先に対する円滑な資金供給に全力を挙げて取り組んでおりますが、11年9月末の国内貸出（インパクトローンを除くベース）は、設備投資の冷え込み、大企業を中心としたバランスシート調整に伴う有利子負債の返済圧力等を背景とした資金需要低迷の中、実勢ベースで11年3月末比894億円の減少となりました。特に注力している中小企業向け貸出については、実勢ベースで11年3月末比814億円の減少となりましたが、不良債権処理の一環として中小企業子会社宛貸出を親会社宛貸出に振替えたことによる減少分を加味した実態は、104億円の純増を確保しました。また、重点業務分野として住宅ローンを中心に積極的な取り組みを推進している個人向け貸出は、11年3月末比479億円の純増で推移しました。

・ 12年3月末計画の実施へ向けての取り組みについて

今後は、4月より全力を挙げて取り組んでいる健全な貸出資産の積み上げ活動を、下記運営を通じて一層強化し、中小企業向けをはじめ12年3月計画の実施へ向けて最大限の努力を行っていく所存です。

- ・引き続き幅広い資金需要発掘に向けた活動の強化と、取引先ニーズに的確に対応し需要の確実な取り込みを図るため、営業店評価基準の一部見直し等機動的貸出運営の実施
- ・企業のリストラチャリング、資金調達手段の多様化に対応し、ノンリコースローンをはじめストラクチャードファイナンスの一層の推進（4月に専任セクションを設置）
- ・効率的営業人員配置、インスタブランチ等販売チャネルの拡充等を実施し、個人向け貸出を引き続き積極的に推進

・ その他

上記のほか、広く信用供与の円滑化・多様化に資するべく、取引先の保有不動産・金銭債権の証券化・流動化ニーズにも積極的に取り組んでいきます。

(図表10)貸出金の推移
(残高)

(億円)

		10/9月末 実績 (A)	11/3月末 実績 (B)	11/9月末 実績 (C)	12/3月末 計画 (D)	備考 (注3)
国内貸出	インパクトローンを含むベース	81,780	72,535	70,446	79,712	
	インパクトローンを除くベース	80,321	71,503	69,685	78,553	
中小企業向け(注1)	インパクトローンを含むベース	25,404	19,019	16,898	21,445	
	インパクトローンを除くベース	24,539	18,489	16,477	20,580	
うち保証協会保証付貸出		0	0	0	0	
個人向け		12,836	13,749	14,228	15,436	1
うち住宅ローン		6,645	7,724	8,470	9,600	
その他		43,540	39,767	39,320	42,831	
海外貸出(注2)		8,082	5,340	3,935	4,082	2
合計		89,862	77,875	74,381	83,794	

(同・実勢ベース<下表の増減要因を除く>)

(億円)

		10/9月末 実績 (A)+(E)	11/3月末 実績 (B)+(F)	11/9月末 実績 (C)+(F)+(G)	12/3月末 計画 (注4)	備考 (注3)
国内貸出	インパクトローンを含むベース	84,011	80,258	79,102	86,531	
	インパクトローンを除くベース	82,552	79,143	78,249	85,372	3
中小企業向け(注1)	インパクトローンを含むベース	27,509	25,793	24,879	27,729	
	インパクトローンを除くベース	26,644	25,180	24,366	26,864	4

(注1)中小企業とは、資本金1億円(但し、卸売業は30百万円、小売業、飲食業、サービス業は10百万円)以下の会社または常用する従業員が300人(但し、卸売業は100人、小売業、飲食業、サービス業は50人)以下の会社を指す。

(注2)当該期の期末レートで換算。

(注3)備考欄にマークを付した部分の状況説明は別紙にまとめて記載。

(注4)11年3月に承認された健全化計画より引用。

(参考) ↓

尚、不良債権処理の一環として中小企業子会社宛貸出から親会社宛貸出への振替要因を加味した実態は、以下のとおり。

11/9月末	純増減
25,797	4
25,284	104

(不良債権処理等に係る残高増減)

(億円 ()内はうち中小企業向け)

	10/上期中 実績 (E)	10年度中 実績 (F)	11年度 上期実績 (G)	11年度中 計画 (H)	備考 (注3)
貸出金償却	129(100)	650(597)	246(177)	120(120)	
C C P C 向け債権売却額	0(0)	8(8)	0(0)	0(0)	
債権流動化(注5)	-59(-30)	176(130)	-116(0)	0(0)	
会計上の変更(注6)	0(0)	3,691(3,151)	385(361)	0(0)	
協定銀行等への資産売却額(注7)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	
その他不良債権処理関連	2,161(2,035)	3,198(2,888)	418(669)	0(0)	
計	2,231(2,105)	7,223(6,774)	933(1,207)	120(120)	5

(注5)一般債権流動化のほか、債権の証券化を含む。

(注6)会計方法の変更により資産から控除される間接償却部分等。

(注7)金融機能の再生のための緊急措置に関する法律第53条で定められた協定銀行等への債権売却額。

1 個人向け貸出

11/3月末実績は、住宅ローンを中心に好調に推移し見込み比313億円の増加となりました。

11/9月末時点では、借り換え需要の減少および低金利下における手元余剰資金による繰上げ返済等があったものの、11/3月末比479億円の増加となりました。

注力している新規住宅購入者向けの住宅ローンの取扱は堅調に推移しており、引続き12/3月末の計画達成に向け、住宅ローンを中心に積極的な展開を図ります。

2 海外貸出

11/9月末は、海外撤退方針に基づき回収に注力した他、バルクセールによる前倒し処理も実施した結果、11/3月末比1,405億円の減少となっており、12/3月末までの計画を既に達成しております。

3 国内貸出（実勢ベース）

11/3月末は、見込みを91億円上回る結果となりましたが、11/9月末時点では、資金需要低迷の中、11/3月末比894億円の減少となりました。

11年下期については、資金需要の掘り起し活動の一層強化と機動的貸出運営により、健全な貸出資産の積上げに最大限の努力を行います。

4 中小企業向け（実勢ベース）

11/3月末は、見込み比64億円減と若干計画を下回る結果となりました。

11/9月末時点では11/3月末比814億円の減少となりましたが、不良債権処理の一環として中小企業子会社宛貸出から親会社宛貸出に振替えたことによる減少分を加味すると104億円の増加を確保しました。

11年下期は、国内貸出の中でも特に重点取組分野と位置付け、引続き資金需要発掘に全力をあげ、積極的に取組んでまいります。

5 その他不良債権処理関連

国内貸出全体については、貸出金償却、債権放棄等、前倒し処理によるものも含め、計画を大幅に上回る不良債権処理を実施しました。